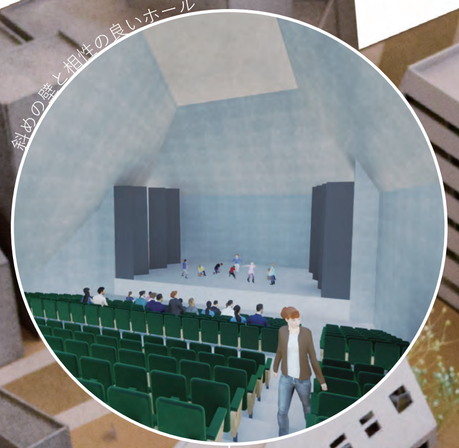
長野駅前街区再編計画

- 紆曲路と斜線制限に着目して -

こちらを読み込むことで動画を視聴できます。

作品名	長野駅前街区再編計画 - 紆曲路と斜線制限に着目して -	作品番号	1/5
校名	信州大学工学部建築学科		
氏名	嶋中大和		







現在、地方都市では衰退化や空洞化が進んでおり、
自動車社会の発達により都市の活力が
中心市街地から郊外へ流れている。
公共交通機関の整備の停滞により自動車での移動が主となり、
本来有効活用すべき中心市街地が
駐車場として自動車利用者の受け皿となっている。

中心市街地における駅前はその都市への入口であり、
徒歩圏が充実している必要がある。
徒歩圏が充実することで豊かな知覚情報を得られる。
すれ違う人々は互いの表情や動きが読み取れ、
街の様々な場で行われる生活の営みを体験できる。

対象敷地とする長野市中心市街地は
未整備である古くからの曲がりくねった道が多く残っている。
多くの都市ではグリッド状に街区が都市計画され
整備された整形な町並みが形成されているが、
長野駅前ではこうした道をきっかけに、
人が歩きたくなる街として特徴的な都市景観が形成されると考える。

自動車社会の発達した地方都市中心市街地において、活気ある街を目指し、
徒歩を前提としたにぎわいの場としての拠点エリアを提案する。







作品名	長野駅前街区再編計画 - 紆曲路と斜線制限に着目して -	作品番号	2/5
校名	信州大学工学部建築学科		
氏名	嶋中大和		

背景：中心市街地の衰退、空洞化

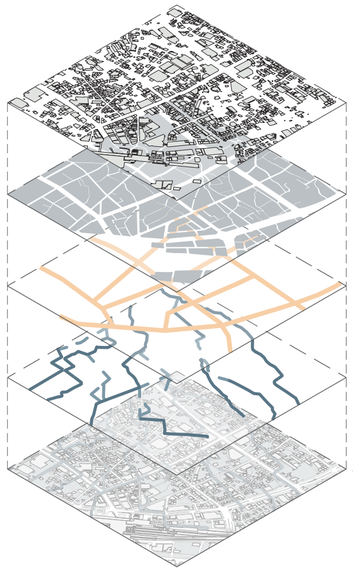




長野市中心市街地航空写真

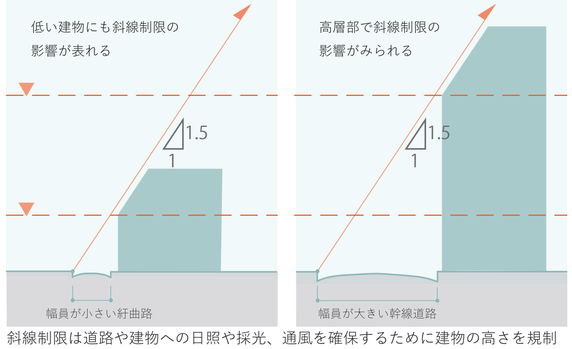
近年、多くの地方都市では人口減少や自動車社会の発達により中心市街地の衰退、空洞化が進んでいる。地方都市は活力創出の機能が求められるが、モータリゼーションにより居住人口は郊外に流れ、購買活動は駐車場の豊富な郊外大型店で行われるなど、都市の活力が中心市街地から郊外へ広がっている。公共交通機関の未整備で、行動距離が増えることにより自動車での移動が主となり、本来有効活用すべき中心市街地を低未利用地である空地、駐車場として自動車利用者の受け皿となっている。

長野市中心市街地の都市構造

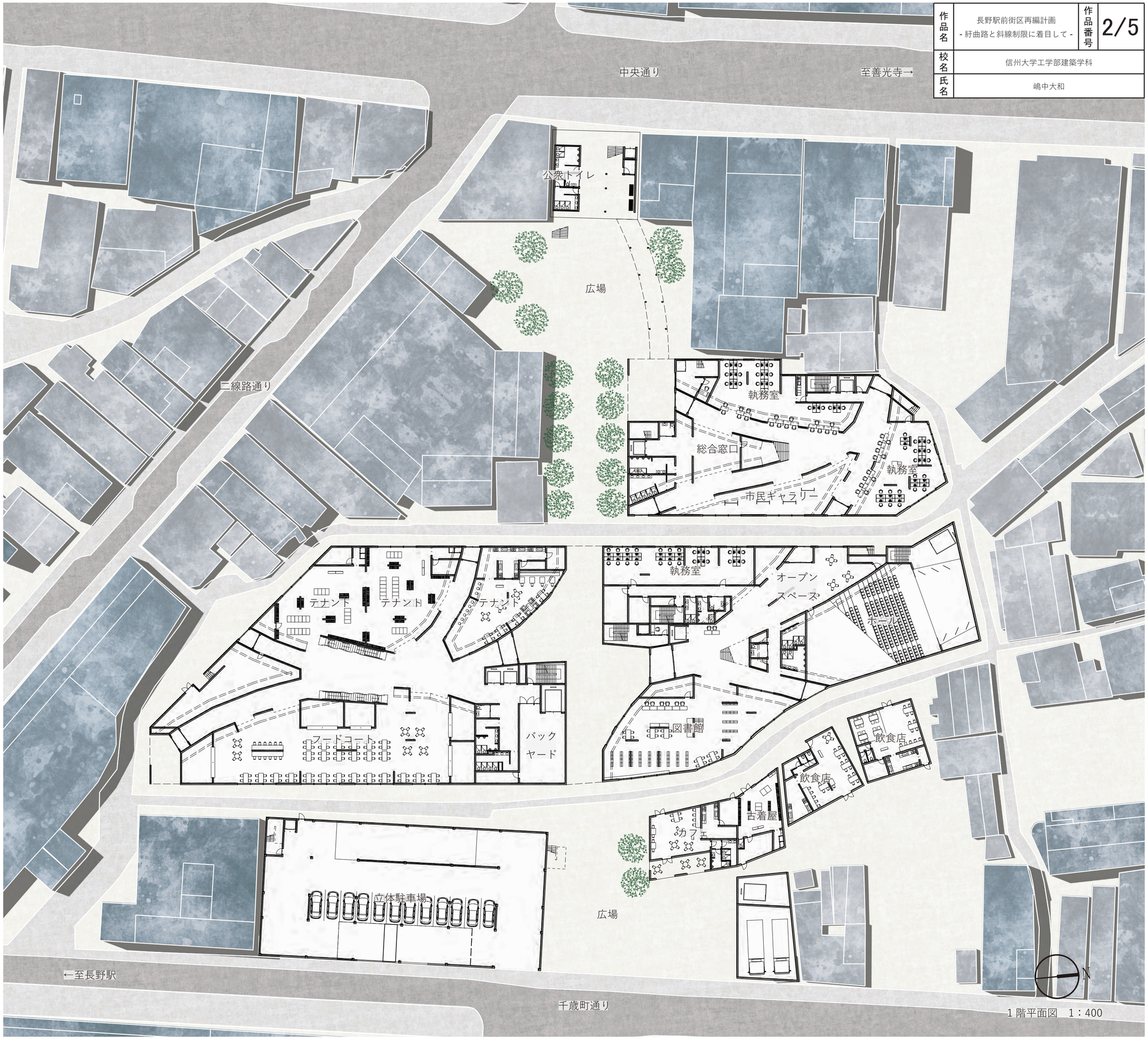


旧裾花川流路を利用した水路が市街地を横断しており、その上に都市計画道路がグリッド状に引かれることで、大通りで囲まれた整形な街区のなかに水路や小路によって不整形地が形成される。この不整形地は不動産的な価値は低いが人が歩きたくなる空間となっている。現在も水路として水が流れているところは水質も良く、ホタルが生息しており、市民の散歩道になっている。また、曲がりくねっていることで奥まで見通せないため、自動車は速度を出しづらく、歩行者はその先になにがあるのか興味が掻き立てられるので人が歩きたくなる魅力的な空間となる可能性がある。

紆曲路における斜線制限



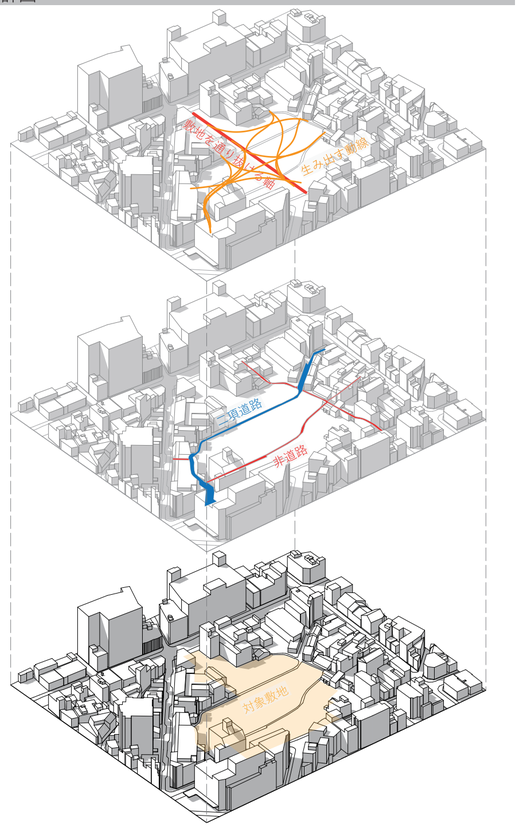
斜線制限は道路や建物への日照や採光、通風を確保するために建物の高さを規制する法規である。長野駅前は商業地域に指定されており、道路斜線制限と隣地斜線制限の影響を受ける。地方都市である長野市にも斜線制限の影響を受けた建物が数多く存在する。特に、古くからの水路や小路を利用した道は幅が狭く、幅員に呼応する道路斜線制限により低層の建物にも斜線制限の影響がみられる。



1 階平面図　1：400

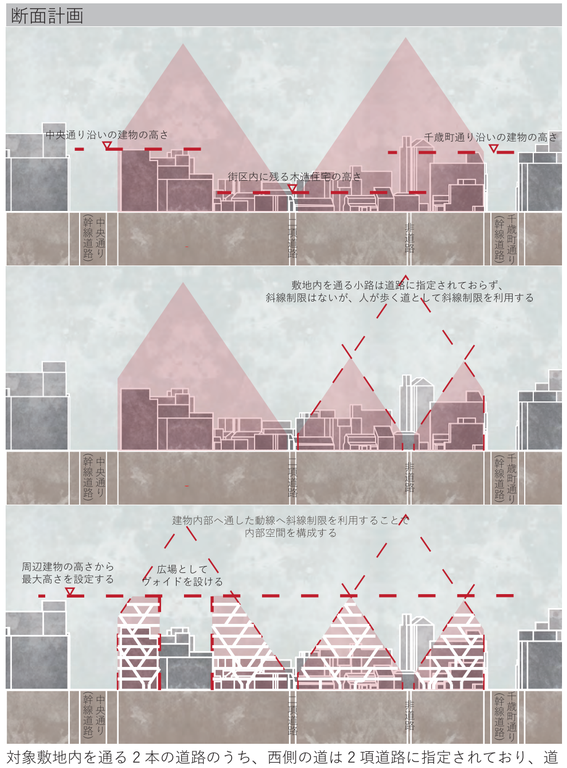
作品名	長野駅前街区再編計画 - 紆曲路と斜線制限に着目して -	作品番号	3/5
校名	信州大学工学部建築学科		
氏名	嶋中大和		

平面計画

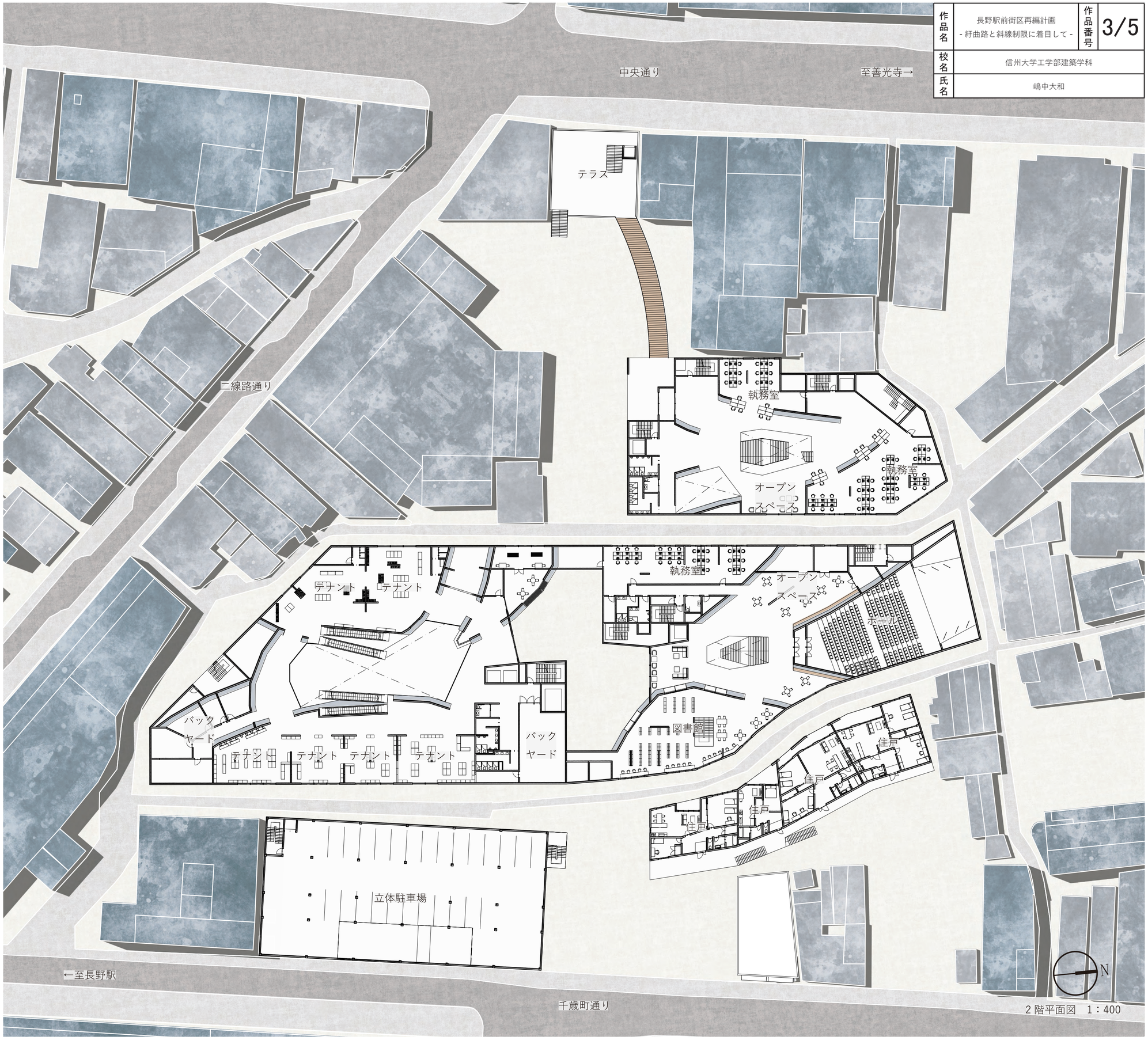


グリッド状に引かれた幹線道路内側の街区内を通る曲がりくねった道、紆曲路を人の流れと捉える。それらの流れを有機的につなぐことで街区内に新たに人の動線を生み出し、歩きたくなる空間への第一歩とする。敷地内を貫通する軸は反対側の道路まで見通すことができ、歩く人を引き込む。

断面計画

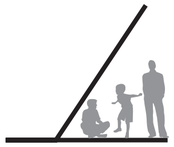


対象敷地内を通る２本の道路のうち、西側の道は２項道路に指定されており、道路斜線制限がかかる。東側の道は非道路であるため法規上、道路斜線制限はかからない。しかし、人が歩く道とするため、この道にも斜線制限をかける。さらに、敷地内に新たな人の流れを生み出すために、屋内空間にも同様の斜線制限をかける。このようにして、斜線制限をひとつの造形モチーフとして、建築内外に人が歩く空間を生み出す。



作品名	長野駅前街区再編計画 - 紆曲路と斜線制限に着目して -	作品番号	4/5
校名	信州大学工学部建築学科		
氏名	嶋中大和		

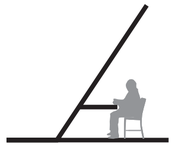
斜めの壁の効果



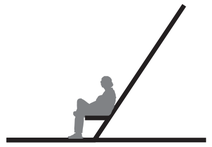
スケールの操作



幅員以上の開放感をもつ空間



１人で机に向かい集中



ちょっと寄りかかって休憩



ディスプレイ空間



ディスプレイ空間

斜線制限を利用したことによって出来た斜めの壁によってこれらの操作が生まれる。建っている大人から、子ども、着座状態というスケールの操作、空間が狭まっていくことを利用した１人での集中時間、目線より少し下にくるディスプレイ空間などの斜めの壁の内側の操作があり、逆に外側では、幅員以上に開放感のある歩く空間や、座って寄りかかることのできる休憩スペース、高くなるにつれて奥に行くことで少ない視線の移動で多くの情報を得ることができるディスプレイ空間などの操作が生まれる。



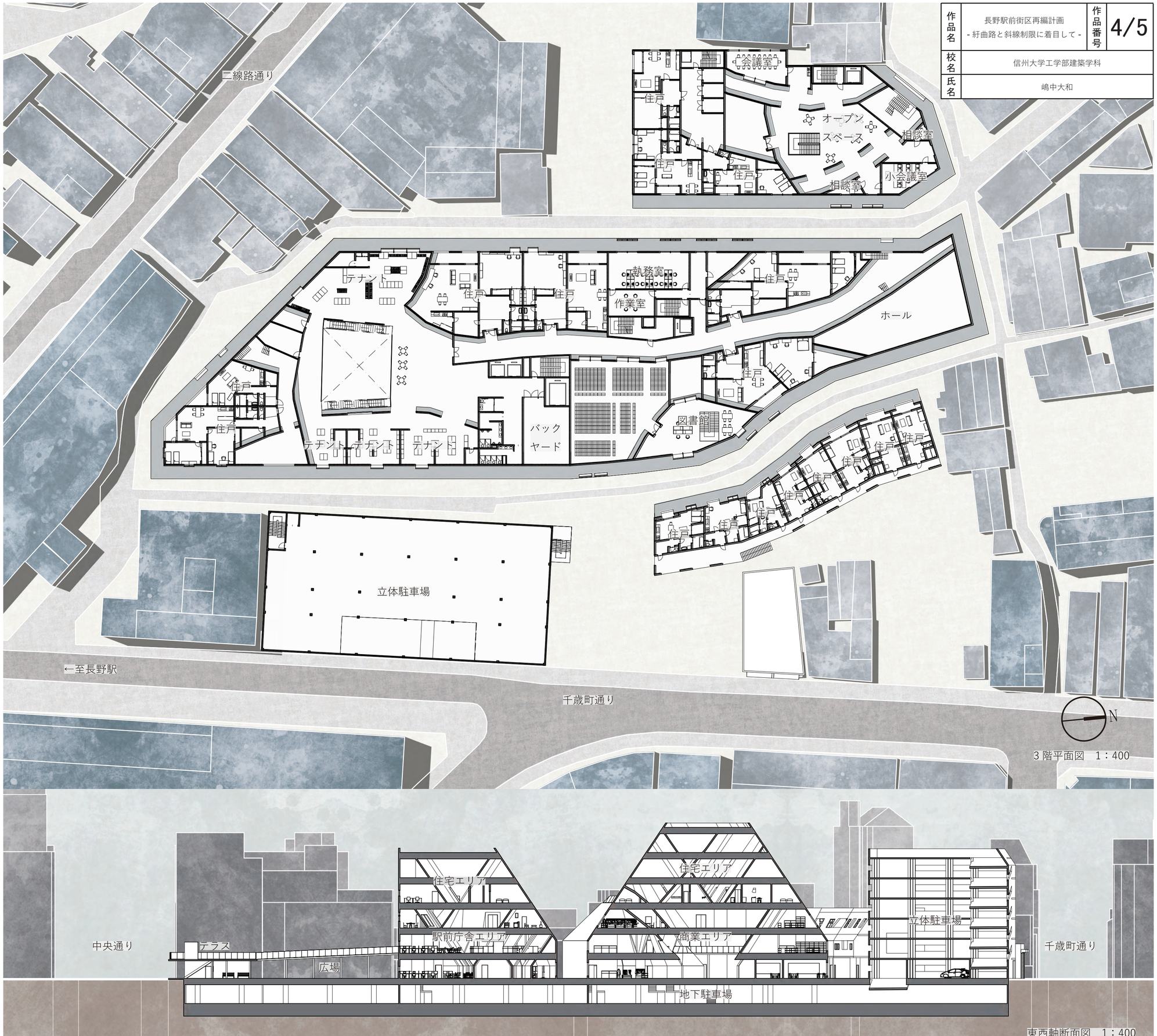
中央通りから広場を見る



テラスから広場を見る



広い空が見える紆曲路



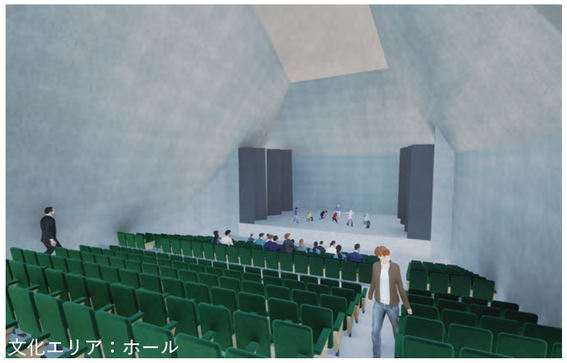
3 階平面図　1：400

東西軸断面図　1：400

作品名	長野駅前街区再編計画 - 紆曲路と斜線制限に着目して -	作品番号	5/5
校名	信州大学工学部建築学科		
氏名	嶋中大和		



商業エリア：中央部



文化エリア：ホール



文化エリア：オープンスペース



駅前庁舎エリア：中央部



住宅エリア：寝室



4階平面図　1：400

